

新「がんばろう！岩手」宣言

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災津波により、岩手県では、4,672 名の尊い命が奪われ、1,123 名の方々が行方不明となり、多くの県民が大切な家族や友人、家や街並みを失うなど甚大な被害に見舞われました。

大震災津波から 1 か月後の 4 月 11 日、約 45,000 人の県民が避難所での生活を強いられている中で、私は「がんばろう！岩手」を宣言し、

- ・ 今回の大災害も、岩手の豊かな自然のもとに育まれてきた自立と共生の心で、必ず克服できること。
 - ・ 犠牲となられた方々のふるさとへの思いをしっかりと引き継いでいくこと。
 - ・ 全国、そして世界中からいただいたお見舞いや励ましを糧に、県民みんなで力を合わせ、希望に向かって一歩ずつ復興に取り組んでいくこと。
- を誓いました。

その宣言からちょうど 5 年が経ちました。

私たち岩手県民は多くの皆様から支援をいただきながら、本格復興を力強く進めています。

今なお、多くの方々が応急仮設住宅での生活を余儀なくされていますが、心と体の健康など被災者一人ひとりが抱える課題に寄り添った支援や、新たなコミュニティづくりの支援に取り組んでいます。

引き続き、安全の確保、暮らしの再建、なりわいの再生を着実に進めます。

また、新しい三陸地域の創造を目指し、再生可能エネルギーの導入促進や地域資源を生かした観光振興、海洋研究拠点の形成強化など、未来につながる施策も進めます。

ILC（国際リニアコライダー）の実現は、本県の豊かな地域資源を生かして科学技術の発展に寄与するものであり、東日本全体、ひいては日本全体の希望となります。

今、交通ネットワークの整備と復興まちづくりの進展によって、三陸地域を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。三陸の未来を拓く取組を、県と市町村や企業・団体をはじめ多くの主体が連携して進めます。

私たちは、この 5 年間に、救助活動や支援で岩手に来て下さった方々を忘れません。

自衛隊、消防、警察の皆さん、アーティストやアスリートの皆さん、外国から支援に駆けつけた皆さん、全国の自治体からの応援職員の皆さん、そして大勢のボランティアの皆さん。

私たちは皆さんとのつながりを岩手の永遠の財産にしていきます。

県民全体の「地元の底力」と全国や海外との様々な「つながりの力」で、被災地の復興や県全体の発展を図り、課題解決先進県としての事例を全国に示していきます。

今年の“東日本大震災復興の架け橋”「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」は、そのような私たちの姿を全国の皆さんに示す大きな機会であり、本県の復興の進捗と、これまでの支援に対する感謝を伝えます。

また、2019 年に釜石市で開催されるラグビーワールドカップ大会、さらには 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会を、世界中からいただいた支援への感謝を伝え、復興の姿を全世界に発信する機会とします。

岩手県は必ず復興します。

県民みんなで力を合わせ、自信と誇りを持って復興のゴール、さらにはその先の未来に向かって進んでいくことができるよう、ここに改めて「がんばろう！岩手」を宣言します。

平成 28 年 4 月 11 日

岩手県知事

達増拓也